

2012 年 12 月 3 日（月）13 時半から 事務所で 花露辺町内会 会長
の下村さんに最近の地域の様子についてお話を伺いました。

ー以前伺ったときから、最近の変化について伺います。

下村 凄く最近変化があったよ。

まず、10 月の中頃に、11 月から 2 年ぶりになるけど、あわびが再開できる見通しできた。

今年は唐丹漁協内では「船が揃った段階であわび漁に、個人で行く事にして、口開け解禁をするよ」ということになったのさ。だからそれで「船が揃うのか」と不安があった人も船が揃わなければ口開けしないという事だから、「じゃあ 11 月までに船が揃うんだな」という期待感。あわびの値段が最終的には安かったけれども、でも船に乗って海に行けるっていうので、まずひとつ生き生きしてきたの。

最初は 11 月の 1 日から口開けの予定だったけども、水温の高いのと、船が出来てきたけれども、あわび漁に適したように改造しなければいけないから。例えば、ここの造船所がなくなっているから九州の方から伊勢志摩とかから持って来た船なのさ。ここの漁には適してない。本体は来たんだけど、その船をここの漁に適したように改造しなきゃいけないのさ。それでちょっとあわびのスタートが 11 月 22 日からと結果的に約半月近く遅れたけれども。

でも、2 年ぶりに船に乗ってから、例えば「船酔いするんじゃないか」とか、「昔のやっていたところを櫂（かい）で操作するのを忘れてしまったんじゃないか」とか不安はあったけども。まず、「行ける」と、それから「漁はなくても船に乗れる、使える」という期待感があったから。やっぱり変わったよ。

ー船は何台くらい揃ったんですか？

下村 今漁師は 52 世帯のうち 40 世帯くらい 8 割近くがあんのかな。全部揃ったの。たまたま仮設に居る人たちもいるから、花露辺の漁港じゃなくて小白浜の漁港から出てる人も居るけども。結果的に花露辺の漁師さんたちは全部揃ったのさ。

ー11 月に、「漁村センターの解体に伴うお別れ会をした」と聞いていますが、その事について教えて下さい。

下村 避難所であった漁村センター。11月4日に、解体にともなうお別れ会というのをやったのさ。最初は11月16日に解体する予定だったけど、それがいろんな手続きの関係で1か月遅れて、12月16日から始まる事になったけども。今まで30数年間と長年使ったんだから、まずそれに対するお別れ会をしようという事で企画したのさ。

それと震災の関係で、腐食して錆びついた神輿の修理が完成したので、その披露をして。

その神輿というのは、3年に1回やってる釜石桜まつり。唐丹地域だけでね。昔唐丹（本郷）に伊達藩の番所があって、唐丹の鎮守である天照御祖神社（あまてらすみおやじんじや）の祭りを3年に1回やったの。その時に花露辺の人たちが祭りの行列が少ないという事で、神社に神輿を寄付したのさ。

その神輿が修理を兼ねて完成してきたからそれを披露しよう。「今のような状況では祭りがいつ開催されるか分からない。だから元気づけよう」という事で、その神輿を花露辺の県道の方から漁村センターの方までずっと担いで、ちゃんと白装束（しろしょうぞく）にして披露したのさ。そしたら今80才ぐらいの人は、もう死ぬまで祭なんか見れないと思っていたから凄く感動したわけよ。

それと合わせて漁村センターの中に神輿を鎮座させて納めて、皆で参拝して。仮設住宅に居る人たちも含めて200人近く、ほとんどの人が集まったの。そこで民謡歌手が来て歌って、皆で酒をほんのちょっとだけども。プラス飲まない人たちいっぱいいるからお菓子とか。あと子供たちには屋台でやるお祭りグッズ、キッチンカーなんかも呼んで、町内ひとつになってお祭りをやったわけ。

「本当の花露辺町内のお祭りは、皆来年の11月か12月になって新しい公営住宅が出来たところでやるんだよ。今回は漁村センター30数年間使わせてくれてありがとう。今度解体する、神輿が修理されてきて良かったね」の感謝祭という事でやったの。大変盛り上がったさ。面白かったよ。だから本当に生き生きしてきた。

ー最近の地域の様子について教えて下さい。

下村 あとは来年の12月には入れるんだっていう。

センターが実際に壊されてそのセンターの工事のための工事用の用具が入って来たり、いろんな解体の時の物が飛ばないように柵を作ったり、仮設の倉庫が違うところに出来たりセンターの物、今まで使った財産を仮設の倉庫に運んだりとか。センターが解体されるばかりに準備したから、皆本当に復興が動いて来たなって感覚をもって来たようだね。

（漁村センターの中の物は）旧幼稚園・保育園って跡地が市の土地であったの。そこに市の方で仮設の倉庫を作ってくれて、町内会の皆で作業して。あとは集会施設だったから婦人会などで料理教室、着付け教室をやったり、お祭の練習をしたり、漁村センターが皆の集いの場だったから、その物を皆で「あとは使わないよ。皆で必要な物あったら、分けて持って行って下さい」とか。そしたら「お祭りの半てん貰ってく」とか「調理器具もらってく」とか。でなきゃ、みんな捨てなきゃならないから。

結局新しい集会所には、新しい施設の物が来るからさ。椅子とか机も含めて新しい集会施設だからそこに付くわけ。まあ、戸数は前より少ないけどね。だから、「皆で使った机だから、もし必要な方あれば持って行って下さい」あと、「皆で使った食器だから必要な方は持って行って下さい」って。「お祭り用の半てんとか着物もあるから必要な方は持って行って下さい」って持って行った人もあるし。あとは自分が婦人会の部長やってた時に、どこかに行って買って来た扇子とかを「ああ懐かしい」と持って行く人もあったりとかさ。実際それが復興、解体とか動いて来たから、それが目に見えたから元気は出たよ。

ー復興の動きの様子について教えてください。（業者、内部の動きについて）

下村 目に見えなきゃだめなの。

いろいろUR機構（UR都市機構という設計業者）とか吉田測量設計とかいろんな関係で業者とは話すんだけど、業者の人たちは内部でいろんな手続きがあるわけ。

例えば、相続権の判子もらうとか、解体してもいいよっていう同意書もらうとか、中の仕事って凄く複雑（はんざつ）なのさ。やっててもそういうのは俺たちには見えないわけ。だから地元の人たちは何も形として見えないから、「進んでない、進んでない」というのだけど、本当大変だよ。だいたい兄弟がいたら、それから全部相続権の判子もらわなければいけないでしょ。明治後期の人たちが相続になってるのもあるんだから。

そういう点で目に見えないんだけど、目に見えたものがなければ地元では安心しない。

12月27日から漁港のかさ上げ工事が始まったから。大きな部位はブルが入ってるんだよ。ショベルカーが入って底の方の瓦礫は取り除いて、脇に擁壁（ようへき）をあと70センチメートル上げようとしてるのさ。地盤沈下がだいたい63センチメートルだから。それをやろうとして今工事重機が入ってるからね、目に見えてきてるのではないかな。

ー工事車両が入って不便になった点がありますか？

下村 船の係留が不便かもしれないけど、別に今東側やってるから西側に係留しとけばいいし。あとうちの地域は特に理解のある地域だし。

ー今後の予定について教えてもらえますか？

下村 明日から被災した土地の基礎撤去に入る予定。

13日は仮設集会所。今16日に選挙あるでしょ。選挙の投票所がないんだ。集会施設ないんだから、極端な話、今震災みたいな何かが起これば避難所がないんだ。漁村センターも電気も水道も切って契約も全部解除して、今自由に出入り出来る。中何にもなしだから。だから集会所（避難所）もないから選挙に合わせて、13日までに作る。

新しい集会所は、避難所は2階建てで、1階は地元の集会所、2階はこれから工事する業者の事務所。だから今度の選挙は新しい集会所でやるんだね。仮設の集会所ができるとさ「本当に始まるんだな」という感じをもっと強くするんじゃないかな。

ー土地、手続き、同意書の関係で進んでいる事があれば教えて下さい。

下村 一番きついのは、一応皆被災した土地は譲ってもいいよということで、全員境界の立会をして、「あなたの土地はいくらで買い取りますよ」という話はついたのさ。自分が相続権がある人であれば、すぐここに居るから判子は押したんだけど、法務局の方から「代書だけではだめですよ」と待ったがかかって。一旦その土地を放棄するのだから、兄弟皆から同意書を得なければ。恐らく正規にやったら、1年以上かかるかもしれないね。

でも、花露辺で幸い問題になってるのは、5軒くらいしかないから。住宅が25世帯のうち5軒。それから土地になると40世帯くらいあるから、その中でも5件。それは「私は売らない、計画に同意しない」と拒否しているわけではないから。売るんだけど、手続き上時間がかかるというだけ。

それは、政治家の皆さんで、法でも改正しなければ迅速に進まないね。

ー花露辺地区と他の地区との違いとは？

下村 でもいろいろな業者とかそんな人たちの話を聞くと、「花露辺はたった5軒だからいいよ。唐丹町内の他の地域では、これじゃ無理です」って。ひとりが反対だと強制執行かきなきゃない、何年という期間、継続をして交渉してって初めて強制執行なのさ。何が起きるかという「あなたの土地は浸水したんだけど、ここに公共の施設を作ります」「買います」「嫌です。俺は浸水する前に坪10万円で買ったのに、何で坪6万円なんだ。売りたいくない」となると市では「あなたの土地はぜひ必要です」となるわけだ。それを拒否すると「ここの工事やりません」という事になる。そうなんのが一番怖いわけだ。復興は進まない。

他地区の方は大変で、防潮堤から海の方はいっぱい作業所が流されたんだけど、あそこ

は手を付けないって。もちろん人は住めないんだけど、作業所も自力で。花露辺と違って敷地が多いから対象者がいっぱい居るから。

花露辺は最初に全部合意したから、こういう人はひとりもないわけ。法的な手続き上の問題だけで。あとは、公共の建物（郵便局とか駅がある）が近い土地は高いの。花露辺の土地が一番安いので、「安いから売らない」って人はひとりも出てこないのさ。

ー土地を売買してからの振り分けの方法は決まっていますか？

下村 とりあえず 100 坪いらない人は相殺するって方法をとったの。

被災前から車が入っていけないような石垣とかあるでしょ。それをきちっとフラットに整地して代わりに便利になって、きちっと車も入って行けて便利になって、上下水道が完備して、下水道が通れるようになって、自分の土地が少なくなるけど返って来るわけ。いいと思わない。だからあそこの海岸の道路から上は全部買い取る。

ただ主産業というか、わかめの加工をやる人は 1 番海岸に近い方の土地を 4 メートル上げた 1 段目の 600 坪を取得するから。2 段段目はそれより 2 メートル上がってそこはいろんなわかめや養殖の加工はしないで、普通のあわびやうに獲るとかの天然採捕の漁業者。上は倉庫という形で 3 段になるのさ。近い人は海岸でこれから専門に漁業加工していく人という区分けをしたのさ。そしたら皆道路の近く欲しいよな。そこで「あまり欲しい人がいっぱい居たら抽選だよ。あと、いっぱい売った人が優先だよ」というルールを作ったのさ。別に覚書交わしたわけではないけどさ。

明日から基礎工事をするから、全部だいたいフラットになっていくんだけど、たまたま私の家の前から西側に 16 メートルぼーんと道路、東側にぼーんと V 字型になっていくから、もう決まった設計図が出て、測量も終わってるのさ。さっき話した下の海岸の作業所用地は別けども、上の住宅は、漁村センターの脇になる公営住宅にはもう判子を押してる。価格も決まってるの。もう銀行振り込みになっていると思うよ。

ー最近、困っている事などはありますか？

下村 ひとつだけ問題出てきたの。

漁村センター壊した時に昔の建物だから、アスベストが出てきたら大変。そうするとその壊したものを持って行って検査して、近隣の家屋に対してそのアスベストが飛散しないような措置を取らなければ、解体できない。それがどうなるのか。

その時に、震災特例法みたいな感じで、全てがクリアされるような法律をつくらなければ。全部震災特区、特例でやらなければ出来ない。でなければ 8 年 9 年スパンがかかって

しまう。でもうち方はここに住みやすいように防潮堤も作らないとなったから、海見えなければ逃げない。だから防潮堤はいらないよ。10メートルの防潮堤造れば、もう要塞みたいになって海見えないわけだから。それを住民から提案したから、皆比較的納得している。花露辺は17世帯が仮設で暮らしていて、14世帯が戻って来るといっている。自主的に戻って来るし、だって戻さなきゃ始まらないべ。

ー復興住宅の計画についてのお話です。

下村 あと、土地もないからだけど、なぜ集合住宅にしたかという、集合住宅の中で同じに居れば、元が花露辺で暮らしてた者だから、孤独死とか安否を確認出来る。「あれ、この集会所にあの人来ないけど、どうした？元気か？」とすぐ確認出来るでしょ。だから新しい集会所に、共同浴場作ったのさ。海見えるような風呂。

共同菜園もある。そこの中で「一緒に花植えましょ」「トマトとっぺし」とか皆生きがいあっぺさ。「疲れたから、皆で風呂さ入っか」と皆で付き合った方が、ずっと孤独死とか引きこもり対策になる。でも、最初は役所に理解してもらえなかった「そんな復興住宅ない」と。でも、一番の合意だから、そこでゴリ押ししてなんとかやったけど。

皆東向きにして、1階は集会施設兼菜園に直行出来るように。あとは2、3、4階の3フロアにそれぞれ4世帯入るの。だから12世帯入れるわけだ。そういう風に設計も完了。もちろんエレベーターもソーラーシステムも付くし、だから共益費がなくなるのさ。共益費というのは、例えば階段の電気とか非常灯とか、いくらかでも必ず共益費だすべ。それがソーラーで全部やるから。だからお風呂もソーラー。だったらいいでしょ。

ー下村さんが取材された時のお話です。

下村 昨日4時からIBCでやった復興元年に取材されて出たの。

戦略的にうちの地区には仮設住宅がないわけだ。それはああいう風な地形だから仮設住宅を作る用地がない。あんだけど、仮設住宅作ったら本設どこに作るの。だからうちは仮設住宅作らないよと。だから被災した人たちに対して「申し訳ないけども、早く本設作るために仮設住宅作らないから、早く花露辺に帰ってくるべし。平田でも本郷でも小白浜でもどこかの仮設に居てける、我慢してける」と。

本設作る用地はここしかない。ここに仮設作ったら本設は作る用地がないから、あくまでも仮設は仮設だからっていう戦略だったんだ、私は。

ー昭和園グラウンドの仮設団地を見ながら思うことがあるようですね。

下村 市の復興会議でもいったけど、何でここに作るわけ。あとから今ここ欲しくてんでしょ。何で大松とかあっちの空いてる所に仮設作らないの。そしたら、ここに本設すぐ出来た。上中島のサンデーの向かい、何であんないいい所さ仮設作ったの。皆出ない限り壊して本設作れない。いっぱい空いてる大松小学校とかの地区に作ってさ、「仮設なんだから我慢してけろ。本設こっちに作るから」といった方がこっちに来るんでないの。永久にあっちに住むっていったら行く？寒くて嫌だもん。こっちの方がいい。復興会議の中でも何回もそんな事いったんだよ。てっとり早く市の土地だからってここに作ったべ。これ空くのに3割空いたって壊せないでしょ

なんで今さら80才近くになって住み慣れた土地を離れてさと思う。だから早く帰してあげる事を考えなければ。その条件は何なのかというと、まず土地を見つけてやる事だ。本設作る時にしっかりすればいい話だし。

ー今後の予定や考えている計画などがありますか？

下村 唐丹の歴史会で1000年先への伝言という形で今、津波記念誌、を作ろうとしているんですよ。被災者とか、いろいろ手記を書いてもらったり、あと聞き取り調査をして、唐丹町内に全部無償で配布したい。その作業を今やってるの。

一応原稿締切は11月30日なんだけど、それは被災した人だけではなくて、例えば都内や関東圏に居て、ふるさと唐丹を3.11の時にどういう風に思ったかという事で、都会の人たちにも原稿をお願いしているの。昨日現在で65名くらい集まっている。だいたいページ数で200ページくらいの文とか写真とか集めて。震災の歴史を伝えたいの。

いろんな思いがある、盛岡に住んでいて「ああ、花露辺どうなったべ」とか思った人もあっぺしさ。あとは実際町内で震災を経験した人。2、3人には拒否された、思い出したくないって事で。匿名で書いてくれた人も居るし、あとはお年寄りで波にのみこまれた経験をしたけども、書けないからという事でボランティアの方が聞き取って一緒に文書にまとめてとか含めて、だいたい100人くらいからは集めたいなと思っているけど。それを来年の3.11の2年目の日までに製本して出すと。

当初は1000部くらいの予定なんだけど、マスコミやいろんな教育機関とか含めればもっと増えるのかな。

やっぱりこれをきちっと伝えていく。

ー震災を乗り越えて、伝えたい思い…。

下村 一番伝えたい事は、いろんな防災訓練とかそういうのやってるけど。でも普段訓練の日だけやろうたって出来ない事はいっぱいある。普段の近所付き合いがなかったら、誰が一致団結して集まるのか。コミュニティを普段から作る必要がある、そういうのも皆に伝えたいと。

皆である時おにぎりを分け合ったのに、今どうなっている？もう忘れたでしょ。瓦礫持って行って返されて来たんでしょ？何であんな事やっててから、そういう思いになる。皆で東日本を救おうって皆で物分け合ったりとか、いろんな支援金出したし。

あの時いった絆とかどこにいったわけ。もう1年8か月で忘れてるんじゃないの。俺はずっとそれを忘れたくないと思って、伝えていくのが俺たちの仕事だと思っているけど。特に小さい子供たちには。

俺の家も被災してるから、支援物資の案内が来るけど、家族には「絶対貰いに行くな。」といった。「お前が行かない事によって、本当に欲しい人がひとり貰っていけるんだぞ、家では間に合っているから」と。

でも、今回良かったのはそれぞれ経験した事と、それに対する35、36才の年代の人たちが、ふるさを見つめるいい機会になったという事だね。いっぱい若い人がボランティアに来て、釜石の街を何とか再生しようと頑張っている。そういう力が出て来たという事は、だんだん高齢化で過疎化、衰退していく中で、若者が出て来たという事はいい傾向じゃないかな。俺たちが経験した正しい事を子供たちに伝えて、その子供たちが意識を持ってふるさを再生しようとか、そういう風に思ってくれるような教育しなければならないだろうし。

ー最近、町内の話し合いでは、住民の反応はどうでしょう？

どういう要望が出ていますか？

下村 昨日も役員会やったけど、これしかない。早く帰りたいって事しか。ただ、帰っても仕事もなければ困るから、復興住宅に住める事を早くして漁業の再開を早くだから。それがほとんどめどがついたし、動き出すって事が目に見えてきてるから、まずいいね。

ー他に、困った事がありますか？

下村 困った事は、役所の対応とかそんなのが一番困る。いっぱいあそこには文句いいたい。頑張っている人もいっぱい居るけど、それは役所の中でもセクションセクションによって違うと思うけど。やっぱり法律の壁というのかな。それは仕方ないと思うけど、その

運用方法いくらでもあるべき。まっすぐ行ってだめなら、右から曲がらなきゃないし、右から曲がれないなら、左から曲がらなきゃないし、そういう考え方はやっぱり役所の人たちは…。

だから 1000 年に 1 回の災害だっていうんだから、前例なんかあるわけない。だから 1000 年に 1 回の災害の法律を作ればいいんじゃないかなと思うんだけど。

もっと心豊かであればいいかな。でも皆震災を経験した事によって、そういう思いは見直したと思うよ。

とにかく来年の 12 月までに入って、今年で 2 年目のお正月だから、来年はいろんな支援頂いた方に「皆仮設住宅も出て花露辺に戻って来てます」そういう風な礼状みたいなのをやって、出来れば皆を集めて、花露辺町内のお祭りが毎年 11 月 6 日にあるのさ。来年はそれをやりたいな。今年はやれない代わりにセンターのお別れ会を 11 月 4 日にやったのさ。やっぱりそれまでには（公営住宅に）入居させたいな。個別戸建て 4 戸建てた人も居るから（自力再建したい人は、新しい公営住宅の周りに戸建てを 4 戸建てる）その土地も確保したし、個人だから設計していると思う。用地さえ造成できればすぐ建てれるはず。

あとは、絶対仮設では死なせたくないな。結局、花露辺の地域というのは、先人からの繋がりがあってコミュニケーションをはかってきた地域だから、それでコミュニティが維持されてきたから、やっぱりその人たちには感謝しなくちゃね。皆そう思っていると思う。

一最近の町内の活動について教えて下さい。

下村 昨日も役員 9 人で役員会やったけど、俺たち役員が沈んでればという事で結構活発に動いているけどもさ。役員の人たちは皆助言者だ。そこの中に消防団員も居るし、漁協の理事も居るし、ワカメ組合の会長も居るし、有線組合の会長さんも居るし、それぞれ各代表のポジションが集まって組織しているから。それを俺が集約するだけです。

明日は文科省から来て、お年寄りの健康運動をどのように役立てていくか、来年も継続してというのをお願いする予定だけど、12、3 人くらい公民館に行ってくれるし。今お年寄りたちが健康で生き生きしているよ。月に 3 回くらい健康運動やってるからさ。集会施設がなくなるから出来ないと思っていたのが、へき地患者輸送バスが迎えに来て公民館でやって、また新しく集会所が出来たらそこでやれるようになる。

明日は公民館。12 月 22 日は唐丹中学校という風な形で、外に出れる楽しさが増える。11 月にはラ・フランス館（紫波）まで行って、グランドゴルフやって来たしさ。お年寄りや

小白浜地区からとスポーツコーディネーター、総勢 33 人で行って来たんだ。温泉さ入って、食事をとって、グランドゴルフをやってお昼を食べてね。面白いよ。ただ、皆今までいろんなワカメの加工なんかで出来なかった分、違う方の生きがいという形で。とにかく家に引きこもってはだめだよ、という思いでやってきたからいい結果が出てる。

それに今、来年の 3 月から漁港を修理している。海岸の方の整地が終われば、そこに作業所が出来るから、そうするとワカメの二次加工三次加工が出来るようになるから、昔の漁村のまちに近づくのかな。男の人たちも 1 日いっぱい仕事があり、自分は年寄りで仕事が出来なくても、お昼や夕飯の準備をしたら年寄りの仕事もあるわけだ。お金じゃない。仕事があるという生きがい。自分がお年寄りになっても自分が何かの為に、役に立ってるという意識を持たせねば。自分が邪魔もの扱いされているとか、何もする事ないから生きていたって無理だと思ったら終わりだよな。そういう意味でも船の復活、ワカメの加工が出来るという事が、お年寄りの生きがいに少しはなっているのではないかな。一番悪いのは自分の存在感がなくなる事。

そういう意味では、今やっている健康運動は最高に良い。例えば、20 才の人と 80 才の人と同じ競技やって、80 才の人が勝つ時あるからね。そうすると面白いわけ。その人は絶対次も来るよね。

第 2 回目が 12 月 22 日、年忘れ唐丹地区レクリエーション大会。お金がなくてもやれる d d 事がいっぱいあるわけよ。ここの唐丹地区でどういう事やっているかと文科省の青年スポーツ局というのが来て、来年、再来年も継続してやれるか明日視察に来るのさ。

一講演や町内会と、いろんな活動をされているんですね。

下村 去年 2 回、被災の後の取り組みとかを東京の安田講堂（東大の本郷キャンパスにある講堂）と、国立青少年センターでやって、山形でやって、青森の六ヶ所村で去年 4 か所やって来たの。「被災者でもこういう風に元気出して、スポーツに取り組んでいますよ。」という事でね。

～下村さん、ご協力ありがとうございました。～